

2020年9月7日

新型コロナウイルス感染症院内感染の収束について

この度は、等潤病院において発生した新型コロナウイルス感染症院内感染について、患者様とご家族様、多くの皆様にご多大なご迷惑とご心配をおかけしたこと、心よりお詫び申し上げます。本日まで2週間以上、新たな感染の発生は見られず、足立保健所との協議により収束に至りました。この間の経過につき、以下にご報告申し上げます。

8月17日に2名の入院患者に感染が診断され、その後、入院患者4名、職員1名、計7名の感染が確認されたため、8月23日に足立区役所で記者会見し、本会ホームページにて院内感染の発生を公表しました。その期間の全入院患者157名と職員（等潤病院及び一ツ家地区関連施設、委託業者）407名、合計564名にPCR検査を実施した結果、入院患者1名、退院患者1名、職員2名のPCR陽性が新たに確認され、合計で11名となりました。

今回の院内感染発生に関連した最終の発症日は8月22日と判断され、その後は新たな感染の発生はありません。患者8名中7名は感染症指定病院等に転院、残り1名は当院で入院を継続しましたが、既に軽快しています。自宅等にて療養しておりました職員3名の健康状態は良好で、本日までに復職いたしました。

感染発生後は直ちに足立保健所に報告し、その指導に基づき対応して参りました。更に8月24日より9月2日まで計5日間、足立保健所と東京都実地疫学専門家チーム、厚生労働省クラスター対策班の合同調査が実施されました。その結果、今回の院内感染に関する感染経路は、特定されるまでには至りませんでした。また、8月初旬に感染し保健所の指示のもと経過観察中であった、4名の職員との関連も認められるところまでは至りませんでした。

感染対策については国立国際医療研究センターのチームが加わり、病院全体の実態調査と指導を受けました。その結果、診療体制や感染対策の基本的な考え方には特に問題は認められず、施設・設備面における制約がある中で、外来の発熱患者やコロナ疑い患者を含めた救急車受入のための工夫を評価していただきました。しかし、実際の感染対策の細部について指導を受け、職員全員が確実に実行できるための対策が重要と指摘されました。既に多くの点で改善に着手しましたが、感染対策の徹底について更に取り組む予定です。

当院は指定二次救急医療機関、東京ルールにおける地域救急医療センター、新型コロナ疑い地域救急医療センターとして、区内外の救急搬送患者の受入に尽力して参りました。しかし、院内感染の発生を受けて、体制が整うまでの間、救急車の受入を一部、制限してきましたが、本日よりその制限を解除いたします。なお、外来診療や一般の入院診療については、これまで通り通常体制を維持します。

この間、多くの方々から激励の言葉とご支援をいただきました。感染患者を受け入れていただいた医療機関の皆様、足立区や東京都、厚生労働省、調査に協力いただきました関係者の皆様、すべての方に心より感謝申し上げます。また、今回の件で様々な困難に直面しながらも、より質の高い医療が提供できるよう、日夜努力した職員全員を誇りに思います。今後は感染対策を更に徹底させて、引き続き地域医療のために、職員が一丸となって尚一層努力する所存です。何卒ご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

社会医療法人社団慈生会 等潤病院
理事長・院長 伊藤 雅史